

平成 30 年度教育事業

ボランティア養成研修兼自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業 「やる気！元気！ボランティア」

1 趣 旨

- ・ ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図り、ボランティアとしての資質を高め、広く社会でボランティア活動に取り組める青少年を育成する。
- ・ 全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、子供の発達段階に応じて安全な活動を指導できる人材を養成する。

2 日 程

- (1) 期 日 平成 30 年 6 月 15 日（金）～6 月 17 日（日）【2 泊 3 日】
- (2) 参加者 37 名（大学生 35 名、社会人 2 名）
- (3) 研修内容及び講師

1 日目 (6/15)	○受付 18:30、開講式 19:00 ○「心と体をほぐして仲間を作ろう♪」講師：etc.works 尾塩 苑 ○「子供たちの前に立つ前に…心構えや倫理観」講師：etc.works 尾塩 苑
2 日目 (6/16)	○「安全に活動するために～救命救急法講習～」講師：日本赤十字社石川県支部指導員 ○「体験でたくましい子供を育てる」講師：金沢星稷大学 教授 池田 幸應 ○「子供たちを理解するために必要なこと」講師：金沢星稷大学 教授 池田 幸應 ○「能登の活動を体験しよう♪野外炊飯編」講師：交流の家 職員 ○「能登の活動を体験しよう♪ナイトハイク編」講師：交流の家 職員
3 日目 (6/17)	○「自然体験活動の楽しさって？意義って？」講師：キープ協会 部長 鳥屋尾 健 ○「ボランティアってなあ～に？」講師：ボランティアセンター 野村 崇 ○「能登青少年交流の家って、どんなところ？」講師：交流の家職員 ○「広がれ！のとボラのWA！」講師：先輩ボランティア、交流の家職員 ○閉講式 16:50、解散 17:00

3 成果と課題

- (1) アンケートによる事業評価

教育事業アンケートの満足度（「満足」と「やや満足」の評価割合）は、事業全体、プログラム、事業運営、職員の指導・助言や対応の4項目全てにおいて100%であった。

【事業全体の満足度】	満足：94.3%、やや満足：5.7%
【プログラム（講義・活動）の満足度】	満足：68.6%、やや満足：31.4%
【事業運営の満足度】	満足：74.3%、やや満足：25.7%
【職員の指導・助言・対応の満足度】	満足：97.1%、やや満足：2.9%

<参加者の記述より>

- 実習が適度にあり、体験も含めた学習で楽しく活動できた。
- 職員が丁寧で親切、臨機応変に対応してくれてよかった。

- ボランティアの先輩の話が心に残った。能登に来てボランティアしたいと思った。
- 少しスケジュールがつまりすぎていると感じた。もう少し、休憩があると良いなと思った。

(2) 成果と課題

《成 果》

- ・ 大学のボランティアサークルに直接広報したことで所属学生 22 名が参加したり、講師である金沢星稜大学池田先生の協力で星稜大学の学生が 10 名参加したり、近年参加がなかった社会人参加者が 2 名いたりなど、多様な所属・背景からなる参加者となった。
- ・ 先輩ボランティア 3 名に事業運営に携わってもらうとともに、能登でのボランティア活動の紹介やボランティア活動を通して感じたことを話す時間を設けた。そのことにより、参加者にボランティアの魅力がより一層伝わった。(ACTIVE2018：新規ボラ 2 名、のとまり会：新規ボラ 3 名)

《課 題》

- ・ 昨年度に比べて、参加学生が減った（昨年度 51 名）。今年度から、大学との単位認定が解消となったことが大きく影響していると考えられる（昨年度、大学単位認定による参加者 31 名）。新しい連携大学を模索するなど、幅広く参加者を募る方法を検討したい。
- ・ NEAL 科目の時間時数との兼ね合いで、1 日目の始まりが金曜日 19 時開始となった。学生にとっては、授業のある平日始まりは、参加検討のマイナス要素になると考えられる。毎年度、同様の課題となっているが、実施時期・期間については、引き続き検討を重ねたい。
- ・ 本セミナーを受講した参加者が、来年度以降も、継続して能登でのボランティア活動に関わってもらえるよう、魅力的な事業企画、ボランティア活動の意義の発信、ボランティアの支援体制構築等に努める必要がある。その一環として、今年度から、ボランティア活性化の新しい取り組みとして、事業後、支援していただいたボランティアに礼状と感謝状（活動写真入り）を送付するようにした。また、「能登のボランティア活動は、事業前後において、職員との話し合いが十分にあって勉強になる。」との他施設ボランティアの感想があったことから、全事業において、ボランティアを育てるという意識をもって取り組むことも大切である。

